

Let's go to the library 図書館へ行こう!



土用の丑の日といえば「ウナギ」ですが、昔から「ウナギと梅干しは食べ合わせが悪い」といわれています。ただ、科学的にみると理想的な食べ合わせらしく、この俗説の理由に「梅干しの消化促進効果により食べすぎでしまったから」という説もあるそうです。健康的にも食べすぎは注意ですが、本には読みすぎがないのでたくさん楽しみましょう!

7月25日と8月22日の第4金曜日は通常どおり開館します。

今月の読み聞かせ

おはなしひろば	毎週火曜日	10:30 ~ 11:00
おはなしルーム	竹田幼稚園 7月 3日(木)	14:00 ~ 14:30
	南部幼稚園 7月 10日(木)	14:00 ~ 14:30
たけのこ文庫のおはなし会	7月 12日(土)	15:00 ~ 15:30

開館のご案内

- ◎竹田市立図書館(TEL&FAX 63-1048)
開館時間 午前10時~午後6時/休館日 月曜日
- ◎荻駅交流館図書室(TEL&FAX 68-2200)
開館時間 午前10時~午後6時/休館日 土・日・祝日等
- ◎久住図書室(TEL 76-0717/FAX 76-0724)
- ◎直入図書室(TEL 75-2211/FAX 75-2217)
開館時間 午前8時30分~午後5時/休館日 土・日・祝日等

新刊のご案内

【一般書】

- ・珈琲怪談(幻冬舎) 恩田 陸
- ・田沼と篤重(新潮社) 早見 俊
- ・アウト老のすすめ(文藝春秋) みうら じゅん
- ・こうしてぼくはスパイになった(東京創元社) デボラ・ホプキンソン
- ・フィンランド発 幸せが見つかるライフスタイル
[WAVE 出版] ラウラ・コピロウ
- ・「国境なき医師団」をそれでも見に行く
-戦争とバングラデシュ編- [講談社] いとう せいこう
- ・フランス田舎暮らし 12 カ月 [パイインターナショナル]
イザベル・ボワノ
- ・虫といっしょに! オーガニックな庭づくり [築地書館]
曳地 トシ・曳地 義治
- ・たくさがわ先生が教えるスマホの困った!
お悩み解決超入門 [技術評論社] たくさがわ つねあき
- ・やなせたかし先生のしっぽ - やなせ夫妻のとおってお話し -
[小学館] 越尾 正子

【児童書】

- ・いつのまにか友だち [金の星社]
おおぎやなぎ ちか 作/モカ子 絵
 - ・日下部くんには日傘が似合う [あかね書房]
神戸 遥真 作/ぼん豆 絵
 - ・森のユキヒョウ [岩波書店] C.C. ハリントン
 - ・クイズで学べる! こども世界情勢 [KADOKAWA] 池上 彰 監修
 - ・ゆるゆる生きた化石図鑑 [Gakken]
irorico まんが/加藤 太一 監修
 - ・クラシック音楽への招待 - 子どものための 50 のとびら -
[音楽之友社] 飯田 有抄
 - ・イチからつくるピザ [農山漁村文化協会]
小田原 学 編/坂之上 正久 絵
 - ・ひっくりかえるだいさくせん [教育画劇] 竹与井 かこ
 - ・パンダおやすみだいそう [講談社] いりやま さとし
 - ・にゅーでたよでたよ [絵本塾出版]
長 新太 作/荒井 良二 絵
- ほか 270 冊ほど入りました。



司書おすすめの一冊。



「君が眠りにつくまえに」

水沢 秋生/新潮社



さまざまな事情を抱えながら懸命に生きているのに報われない、コンビニですれ違っただけの3人の男女。しかし、人気最下位の競走馬「マジメガイチバン」がレースで一発逆転した夜、彼らの人生をひっくり返す大事件が起こる…。72時間の間に起きるありふれた偶然が生む奇跡に、心が揺さぶられる物語です。



「Q 世代塾の問題児たち」

石川 宏千花 作/みずす 絵/理論社

「普通」って何? 世の中のことをもっと知りたいと願う主人公・空乙は、受験や成績アップのためではない「Q世代塾」を見つけ、通うことを決める。先生は高校生、生徒は子どもから高齢者まで。学校や家庭に居場所を見出せない彼らが出会い、自分の中にある「問い」と向き合う日々を描いた連作短編集。「自分らしく生きるとは何か?」を深く考えさせられる、今の若者にぴったりな物語です。



「ありがとう中国料理 - ゆかいな人生 -」

斉藤 隆士/熊田出版



竹田市に生まれ17歳で中国料理の世界に入り、「四川料理の父」と謳われた陳建民氏に弟子入り。札幌パークホテルなど複数の中国料理店を経て、33歳で熊本ホテルキャッスル「桃花源」の中国料理長に就任。さまざまな人と出会い「人に恵まれた人生でした」という斉藤シェフが、中国料理の素晴らしさを若い人たちに伝えたいと、その料理人生を振り返った1冊です。



読み聞かせにおすすめの一冊

「ガマ千びきイワナ千びき」

最上 一平 作/ザ・キャビンカンパニー 絵/文溪堂

滝を登ろうとしては、途中で落ちてしまいうイワナ。ガマは「登れっこないよ」と呆れつつも、イワナのひたむきさに憧れています。そして、ある大嵐の日、ついにイワナは、滝を登り…。第73回小学館児童出版文化賞を受賞した2組による、イワナの諦めずにチャレンジし続ける姿と、その姿に触発されたガマの様子が心に響く絵本です。

